

大阪児童美術 ニュース

第 83 号

2026 年 10 月 17 日発行

発行責任者

大阪児童美術研究会
会 長 田中 建司
研究局長 黒岩 和子

内 容

「感性の豊かさを育むために」
・未来につなぐ一本線指導」
「研修会を振り返って」

1 頁

「令和 7 年度 実践発表・
実技研修実施一覧」

2 頁

「高槻市立たかつき芥川認
定こども園で公開保育を
実施」

3 頁・4 頁

「次代へ繋ぐ 公式サイト開
設！」「編集後記」

4 頁

「感性の豊かさを育むために」 ―未来につなぐ一本線指導― 「見る」楽しさ、「描く」喜び、「調べる」充実感を

大阪児童美術研究会 会長 田中 建司

一本線指導の歴史

本会は、来年度、創立八十周年の節目を迎える。

昭和二十一年、絵を描くことで子どもを救おうと、初代会長高妻巳子雄先生が立ち上がり、本会が発足した。

当初、「一本線指導」を提唱し、多くの同志を集め、美術教育の推進にとりかかった。

一本線指導とは、描く対象物から線を見つけ、「見る」

「描く」活動を続け、形を表す喜びを体得させようとする指導である。

当時、「子どもから出て、子どもに返す」という指導のスローガンを掲げ、子どもも理解と実践に邁進した。

子どもの個性や能力、興味や感性、得手・不得手などの

違いに着目した。同じ子どもはいないという理解のもとで、その子に合う支援や指導を行い、子どもに返そうとした。

一本線指導のねらいと

約束ごと

対象物を「静かな目」で見ると、見えなかったり、気づかなかつたりしたものが見えてくる。感じなかったことも伝わってくる。指導のねらいは次の二つである。

- (1) 対象物から線を見つけ、見えたところから見るところまでを、心を込めて描くことができる。
- (2) 対象物の線の長短や強弱、線が向かう方向、どの線を選ぶか等を自分が判断し決めていく。そして、子ども

に決断力と集中力を育てていく。

子どもに分かりやすいように、描くときの約束として次の四点を示した。

- ① ゆっくり
- ② 同じ速さで
- ③ できるだけ続けて
- ④ はじめと終わりをい

ねいに

子どもにとって一本線とは

当時も今も、対象物をよく見て描く活動は、子どもにとって抵抗がある。そのため、はじめの段階では、ドングリや貝殻、ミニトマトなどの小さなもので、描きやすいものから始めるとよいとされてきた。

慣れてくると、目と手、頭（心）が連動して、複雑な形を

未来につなぐ一本線指導

私たちは、大きな時代の転換点に立っている。Chat GPTをはじめとした生成 AI の登場と急速な進化である。調べたいことがあれば、AI が則、回答してくれる。

この機能を使って、一本線指導に「調べる」活動を導入して感性を深める実践が始まっている。

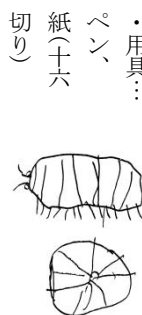
「調べる」ことで新たな「気づき」を体得することができ、自然や命あるものへの畏敬、人体の神秘や、人の活動やものへの感謝、動植物の成長やたくましい生きさまなど、AI で調べることで、愛

他の能力も育ってくる。次に、保育者や指導者、子どもたちが調べたことから、どんな「気づき」が生まれたのかを紹介する。

〈幼児 五歳児〉

「ダンゴムシ」を描く

・用具：ペン、紙（十六切り）



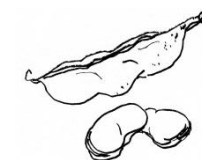
◇気づきや分かったこと

こわいときにまるくなるのは、人間と同じだな。

〈小学校 四年生〉

「そら豆」を描く

・用具：ペン、紙（十六切り）



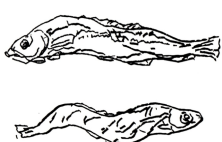
◇気づきや分かったこと

そら豆は、さやが空（そら）に向かって上向きに生えるから「そら豆」という名前になったんだって。さやの中の白いもの（ワタ）が、若いそら豆を守っているんだって。

〈小学校 六年生〉

「煮干し」を描く

・用具：ペン、紙（十六切り）



◇気づきや分かったこと

イワシは、人間と同じように、骨や筋肉、内臓などがあるんだな。人間は、生きていく物の命をいただいていることが分かった。



このように、AI

等で調べることで、人も生き物であることや、自然や動植物と共存して生きていかなければならないことにも気づいていく。

研修会を振り返って

研究局長 黒岩和子

大阪児童美術研究会では、令和七年度も、大阪市天王寺区の「たかつガーデン」で、年間十回の実践発表や実技研修を実施した。

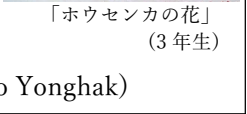
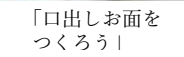
子ども達が造形表現活動をするときの気持ちや意欲を大切に、創意工夫する喜びと達成感を味わえるような題材・指導のめあて・指導上の留意点・材料用具の工夫等々について、検討を行った。

毎回の実践発表や実技研修では、講師の方々の子ども達や造形表現活動への熱い思いに触れることができた。

次頁に、令和七年度の実践発表と実技研修の概要を紹介している。毎回の研修会で、素晴らしい内容の実践発表・実技研修を担当してくださった講師の方々と、ご参加くださった方々、研修会の運営に多大なご支援とご協力をくださった方々に心より感謝とお礼を申し上げます。

令和7年度 実践発表・実技研修一覧

※ 年齢・学年記載のない作品写真は、実技研修時の作品です。

令和7年 5.17(土)	実技研修	「紙テープをつかったつるすかざり」 「紙テープで飾ったお気に入りの帽子」	黒岩和子	
6.14(土)	実技研修	「水性ペンを活用した様々な表現方法」	角地佳子	
7.12(土)	実践発表	「植物や昆虫から感じたことを、語り合い、表現する ～観察を通して わかったことを、絵や言葉で表現する楽しさを味わう～」	岸上三重	
	実技研修	「見て描く絵 …セミの抜け殻、レモン、ピーマン」	徐竜学(Seo Yonghak)	
9.13(土)	実践発表	「ほそくなが〜く、ビー玉めいろ」「つみ木のマンション」「口出しお面で おにはそとふくはうち 口出しお面をつくって豆まきをしよう(節分の絵)」 (1年生)「ふでばこランド」(4年生)	甲斐恵子	
	実技研修	「口出しお面をつくろう」	甲斐恵子	
10.11(土)	実技研修	「おはな紙の絵」(5歳児〜2年生) 「切り絵」(3〜6年生)	平井眞由美	
11.8(土)	実践発表	「ふしぎなつぼ」(3年生)「こんな妖怪いたらいいな」(4年生) 「友だち(木版画)」(5年生) 「カラフルだんご」「アイスクリーム」「たこ焼き」「ミニトマト」「かたつむり」 「ポッキー」「かき氷」「クラッカー」「ふしぎないきものあらわれた」「動物園に行ったよ」 「くるくるかわるねこのひげ」「ビー玉コロコロ」「紙テープのつるすかざり」(2年生)	永縄裕美	
	実技研修	「牛乳パックで万華鏡をつくろう」(3〜6年生)	武田陽子 永縄裕美	
12.13(土)	実践発表	「ラーメンちゃん」「Tシャツにぐるぐる かわいいぼうし」(0〜1歳児) 「線のおさんぽ」「シャワーをしたよ」(2歳児) 「からすのパンやさん」「10ぴきのかえる」(4歳児) 「こんな木があったら…」(5歳児)	松村和代	
	実技研修	「コットンボールでXmasを飾る」	後藤由美	
令和8年 1.17(土)	実践発表	幼児期の造形表現の重要さと、こども・保護者を含めた鑑賞の大切さについて 「たんぼぼ」「雨降りくまのこ」「バナナの親子」「花火を見に行こう」 「船に乗って探検だぁ」「サンタがまちにやってきた」(3〜5歳児)	勝田順子	
	実技研修	「ハロウィーンのお化け探し」「ミトンを使って何ができるかなぁ」	勝田順子	
2.14(土)	実践発表	「学びや体験を取り入れて生かす表現活動 ～世界とつながる私たち～」(5年生)	中川潤也	
	実技研修	「釘であそぼう」(5歳児〜2年生)	宇津木七実	
3.14(土)	実践発表	自分の心にある造形を引き出して！！ … 太陽の塔とミyakミyakのコラボ！ 「万博」岡本太郎の作品から！「感じた心」色画用紙を使って「お面」「春だよ！」 「紙皿に…」「金魚の家族」「登るキャラクター」1版多色版画「愉快的顔」 切り絵「蝶」(以上4年生) 切り絵「さかな」(3年生)	安見澄子	
	実技研修	「造形活動の視野を広げる ～“質感”を味わう様々な工夫～」(5歳児〜6年生)	大野木位行	



「万博」(4年生)



「こんな木があったら…」(5歳児)



「サンタがまちにやってきた」(5歳児)



「動物園に行ったよ」(4年生)



「友だち(木版画)」(5年生)



「釘であそぼう」



「〇〇をしている自分」(5年生)



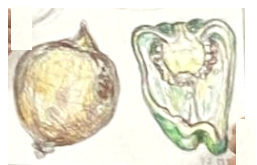
「質感を味わうバック」



「水性ペンのにじみを活かして」



「切り絵」



「レモンとピーマン」

特集

高槻市立たつき芥川認定こども園で
公開保育を実施

有意義だった公開保育

研修部長 池田美保子

大阪児童美術研究会では、七月二十二日（水）に、高槻市立たつき芥川認定こども園で、勝田順子先生による絵画指導の公開保育と、研究討議会を実施させていただいた。

勝田順子先生が指導された子どもたちの絵を見ると、どの子どもも自分の思いのびのびと表現しているため、どのような準備や指導をされているのか等の指導上の大切なポイントを、公開保育を通して見つけたいと思っていた。



「ダンゴ虫」(5歳児)

勝田先生は、当日までに事前指導も実施されていた。一回めはパスと絵の具を使った「しましまじま」の線あそびで、二回目は「だんごむし」を題材に、絵画指導であった。三回目（公開保育当日）は、園庭で見つけた「てんとう虫」を描く活動であった。どの回も導入では絵本や写

公開保育を振り返って

保幼1部会 勝田順子

7月に、高槻市立たつき芥川認定こども園の5歳児を対象に絵画指導の公開保育をする機会をいただいた。

子ども達と共に表現活動をする中で、子ども達の聡明さや集中力のすばらしさに驚いた。それは、日頃の教職員の方々のご指導・ご尽力に加え、3・4・5歳児による異年齢クラスで子どもたちが生活しているため、その中で子ども同士が育ち合い、様々な遊びの中からコミュニケーションをとり、学び合っているためであろうと思った。

公開保育では、「てんとうむしを描こう!」という題材で、パスと絵の具で「てんとうむし」の絵を描くことにした。てんとうむしをどのように描けばよいかわからない子どもがいるかもしれないため、初めに、てんとうむしの体は、頭と体でできており、足は六本で、羽に丸い星がいくつあることを話し合った後、



てんとうむしについての話し合い

「てんとうむしのてんてんちゃん」の絵本の読み聞かせをした。その後、頭と体をこのように描いていけばてんとう虫がかけるということを、子ども達の意見も取り入れながら、参考例として実際に描いて見せた。

子ども達は、どのように描こうかと考えたり、悩んだりしながらも、思い思いの大きさのてんとう虫を描き、てんとう虫が遊んでみたいと思う葉っぱも集中して描いていた。子ども達は



「てんとうむしを描こう!」(5歳児)

てんとう虫を描くこと、描くことが嬉しかったようであった。

その後の討議会では、子ども達の主体性を引き出すための保育者の関わりや環境構成等についての意見交流が行われた。

このように公開保育をさせていただいた結果、新たな発見があり、今後の課題にも気づくことができた。

また、幼保や小学校の先生方が参加してくださったことで、幼児教育から小学校教育への接続にもつながると思った。最後に、公開保育をさせ

てくださった高槻市立たつき芥川認定こども園と子ども達、そして関わってくださったすべての教職員の皆様方に心より感謝とお礼を申し上げます。

絵画指導の公開保育を受けて

高槻市立たつき芥川認定こども園 園長 竹葉亜希子

今回、公開保育のお話をいただいた時、少し不安に感じることがありました。

子ども達は、個人持ち絵の具の経験がなく、集中できる時間も限られています。そのため、伝えたいことが多い絵画活動では、話を聞く時間が長くなり、活動そのものを楽しめなくなるのではないかと思います。

しかし、勝田先生は、まだ子ども達と出会っていないにもかかわらず、「できるよ!」とおっしゃってくださいました。

事前の打ち合わせでは、子ども達の普段の姿を丁寧に聞き取ってくださいました。そして、子ども達が描くことを楽しめる題材を選び、興味をもったり、イメージを膨らませたりできるよう、絵本や写真なども準備してくださいました。

当日の絵画指導では、子ども達が安心して自分の表現を楽しむことができることを、何よりも大切にされ

ていました。常に笑顔で、一人ひとりの表現のよさを見つけて言葉にしてくださいました。子ども達は自分の絵の出来栄に満足していたようで、降園時には、保護者の

方に絵について嬉しそうに話す姿も多く見られました。今回の公開保育を通して、子ども達の経験や発達に合った題材選びや事前準備、導入、言葉かけが大切であることを改めて学びました。



「てんとうむしを描こう!」(5歳児)

身が活動を心から楽しむこと、そして、子ども一人ひとりの表現に「すてき!」という思いを込めて伝えることの大切さも実感しました。



「てんとうむしを描こう!」(5歳児)

これからも、子どもたちが安心して自分らしく表現を楽しむことができるような保育を大切にしていきたいと思っています。(次頁へ)

子どもの思いを大切にした 絵画指導

高槻市立たつき芥川認定こども園

南場あゆみ

A児は「勝田先生と、絵を描くの楽しみ！」と言っていたが、集中して話を聞いたり、イメージしたことを形に表したりすることが難しい時もあるため、「今日は何を描くのかな？」と、期待と不安が入り混じっているようであった。

絵画指導が始まると、自分なりに考えながら、パスで大きなテントウムシを描いた。満足したものが描けたので早く色を塗りたいようにしていた。まだ絵の下描きができていなかったが、勝田先生に絵の具で色を塗ることを提案してもらい、嬉しそうにテントウムシに色を塗っていた。

その後、テントウムシが遊ぶ葉っぱを描こうと思っていた時に、「絵の具だけで葉っぱを描いてもいいよ。」と言ってもらったの



A児の「てんとうむし」の作品

で、喜んで描いていた。A児は、自分の思いを受け止めてもらい、思うように描くことができたので、とても嬉しそうにしていた。子ども達が、自分で「できた！」と感じ、満足した様子で活動を終えるようすを見ることができ、とても嬉しかった。子どもの発達段階に合わせた題材や、さまざまな準備、一人ひとりに寄り添った声かけなどを、実際に目の前で見ていただくことができた多くの学びのある研修会であった。

学ばせていただいた

5歳児の絵画指導 幼小部会 安見澄子

毎年、研修会で多くの題材の実践発表をされている勝田順子先生の「たつき芥川認定こども園」での絵画指導に参加させていただくのが、とても楽しみでした。造形活動を指導される勝田先生の明るさと心の豊かさに、子ども達も安心して引き込まれるだろうと思っていました。

保育室では、既に、画版・画用紙・絵の具などの準備が整い、ホワイトボードには、本時の教材例や写真等が掲示され、子ども達を待つばかりの設定でした。

勝田先生からは、絵画指導の計画・準備物・絵本の選定方法・子ども達への声

かけ・表現させたいポイントの指導など、学ばせていただいた内容が山ほどありました。

絵画指導は、「てんとう虫を描こう！」という内容で、導入では、てんとう虫のからだのつくりや色の確認をした後、「てんとう虫はどんなところで遊びたいのだろう」と話し合った後、てんとう虫がいる葉の形についても話し合いをされました。

5歳児なのに、てんとう虫と葉などの重なりを考え、集中してパスで描いていくように感じました。

次は、絵の具で色をぬる指導ですが、小学校の低学年でも絵の具指導は大変です。5歳児が個人持ち絵の具で、色を混ぜる・塗る・筆を洗う等をしていたので、びっくりしました。

子ども達の作品は、一人ひとりの思いがこもった表現でした。一時間半もの長時間、集中力を切らさず表現を楽しんでいた子ども達の姿は、お見事でした。

これも園長先生をはじめ、多くの先生方が、一人ひとりを大切に育てておられる証だと思いました。

勝田先生は、子ども達のつぶやきを大切にされ、子ども達の気持ちを引き出し、質の高い絵画指導を公開してくださいました。酷暑の

中にもかかわらず、指導計画を練り、何度も園に足を運ばれたことと思います。ありがとうございました。

小学校のつながりから

見た保育

大阪市立鳴野小学校

川口 博美

初めての保育現場での見学を大変楽しみにしていました。現役時代は、小学校一年生の担任が多く、幼小・保小のつながりに興味がありました。最後の学校で、

一年生を担任した時、絵画指導が熱心な幼稚園から入学してきた児童が多く在籍しており、その子達の図画工作に対する意欲や作品のびやかさに目を見張るものがありました。

公開保育では、子どもの生活の中から題材を選ばれており、導入では、絵本や写真等を参考にイメージづくりをされていました。一年生の導入より丁寧にされていました。

てんとう虫や葉の形などを子ども達に尋ねながら、実際に絵を描き進められていたのは、園児に、描くときの見通しを持たせるために必要だと思いました。

保育者が描いた絵は、あくまでも一例で、子どもたちは、その絵に左右されることなく、その子の思うてんとう虫や葉を描いていまし

た。

機関指導では、どのような表現も(迷って立ち止まることも)その子の表現として大切にしておられることがよく分かり、勝田先生の姿勢に敬服しました。

私は、現在、小学校で支援学級のサポートをしています。今回学ばせていただいたことを、少しでも活かしたらと心を新たにしました。

次代へ繋ぐ 公式サイト開設！

広報担当 松村和代

大阪児童美術研究会三

感性豊かな人に育てる

どの子も楽しく

どろんどろん表現できる

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

大阪児童美術研究会 公式サイト

編集後記

大阪児童美術ニュース第83号をお届けさせていただきました。今号は、七月二十二日に実施した高槻市立たつき芥川認定こども園での公開保育特集号とさせていただきます。

酷暑の中ではありましたが、五歳児の子ども達が絵を描いている時の集中力とその子独自の表現力に、感銘いたしました。

公開保育の実施に向けて、尽力くださいました方々と、貴重な内容の原稿をお届けくださいました方々に、心より感謝とお礼を申し上げます。(文責 黒岩和子)

告会」での乳幼児から小学生の具体的な指導事例報告や、会員による楽しい「実技研修会」の様子等を多くの写真とともに詳しく掲載しています。以下のURLより、是非、ご覧ください。
<https://osaka-children-art.com>

会員のみならず、皆さまに、是非このサイトを「スマホ」等でシェアしていただき、「こんな研究会があるよ」とお声かけください。みなさまのお声がけのひとことが、新しい仲間を迎える最大の力となります。共に新たな扉を開きましょう。